



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 22 年 2 月 27・28 日(土・日)
木エプロジェクト始動！ 編

2 月 27・28 日の 2 日間、山谷公民館で編み座スツールの製作が行われました。当初は 10 名の予定でしたが、12 名の方が参加してくれました。これは、ときめき隊の「緑の募金公募事業」の一環で、地場産広葉樹の間伐材を利用していこうというものです。講師は、以前に木製カヌー作りやツリークライミングでお世話になった北海道大学の小泉先生です。

最初にパワーポイントを使ったオールスタンディングの集中講義が30分程。早く作りたムズムズ感と学生時代にフィードバックしたようなワクワク感がミックスされた不思議な時間のあと、いよいよ製作にかかりました。

完成写真を見る限り、骨組みまではさほど時間はかからないだろうと思っていたのですが、材料を滑らかにして艶を出すためにカンナやペーパーをかけたり、面取りをしたり、脚や貫の両端を細くしたり。シンプルな美しさの中には、相応の手間がかかっていることがわかりました。組み立ての段階では、人が座るものなのでガタつかないように、水平と直角には細心の注意を払いました。

最後に座面を太めの紙紐で組んでいくのですが、座面はスツールの顔です。作業が進むにつれ皆さん無口になり真剣な表情になります。私の場合は喋ると組む順番を間違えてしまうので黙っていたのですが、それでも高橋さんにだけは負けれないという低い「志」のもと、時折横目でチェックを入れながら「テキ」に讃辞を送りつつも、ちょっとした優越感に浸っていました。

今回は、カヌーとは違った手軽さ、生活の中で使える身近さ、手作りの楽しさ、そして手仕事の美しさを実感することができました。この楽しさを地域の皆さんにも伝えていく、それがときめき隊らしさだなと、ひとりで納得してしまいました。

よし！次はスキルアップして背もたれのある椅子に挑戦したいですね。小泉先生、またよろしく願います。

文：石川 博孝



皆さんまだ未完成ですが、無事2日間の講習が終了しました。先生、仕上げ講習の方も宜しくお願いします。



小泉先生は前日から木高研で材料の加工をしてお準備下さいました。



厳しい日常を忘れ黙々と12角棒を削る人、ライバルの進み具合を確認しながら作業を進める人、それぞれです。



新たな作業に入る時に先生から説明を受けて、それぞれが作業を進めます。いよいよ組み立てです。



分校の2階でみんなで昼食。小笠原さんはジュンサイ鍋を用意して下さいました。



周りの厳しい目が気になってなかなか進まない木高研チーム(左)と仕上げを待つばかりの石川さん(右)。